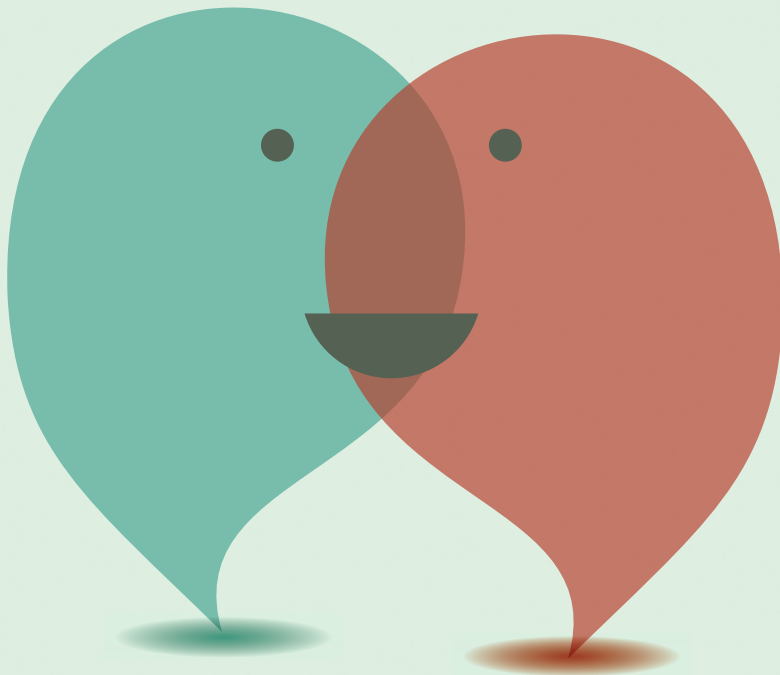


令和 7 年度 北海道地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
地区会議運営協 議会の開催	令和 7 年 5 月 26 日 (月)	文書開催	議題 (1) 日本学術会議公開シンポ ジウム「AI 時代に「対話」の意 味を考える」の開催について (2) 日本学術会議公開シンポ ジウム「次の新興・再興感染症に どう備えるか」の開催について
	令和 7 年 12 月 22 日 (月)	北海道大学	議題 (1) 日本学術会議サイエンス カフェの実施について
	令和 8 年 2 月 27 日 (金)	文書開催	議題 (1) 令和 8 年度日本学術会議 北海道地区会議事業計画 (案) について 報告 (1) 令和 7 年度日本学術会議 北海道地区会議事業実施報告 について
公開シンポジウ ムの開催	令和 7 年 8 月 7 日 (木)	北海道大学 (ハイブリッ ド開催)	テーマ 「次の新興・再興感染症にどう 備えるか」 詳細は別添のとおり (参加者 345 名)
	令和 7 年 8 月 10 日 (日)	函館市亀田交 流プラザ (ハイブリッ ド開催)	テーマ 「AI 時代に「対話」の意味を考 える」 詳細は別添のとおり (参加者 247 名)
地区会議ニュー スの発行 (No. 56)	令和 8 年 3 月		No. 56 を発行し、北海道地区の 日本学術会議会員・連携会員及 び教育研究機関等へ配付

AIの急速な進展は、私たちの生活や社会の在り方に大きな変化をもたらしつつあります。その中で、他者と「対話する」ことの意味や可能性も、あらためて問われています。本シンポジウムでは、「AI時代に『対話』の意味を考える―熟議がつむぐ知と社会」と題し、歴史学・哲学・地域研究・言語学・法学・社会学という多様な視点から、対話の意義や課題について議論します。



過去と向き合うこと、異なる文化や価値観を理解すること、社会のルールを築くこと――こうした営みの根底には、常に「対話」が存在しています。第一部では各分野の専門家から、対話をめぐる多様な論点を提示します。それを踏まえ、第二部では哲学対話の手法を用いて、参加者とともに「AI時代の対話」について深く考えます。

AI時代に「対話」の意味を考える

―熟議がつむぐ知と社会― はこだて国際科学祭 2025 プレイベント

日時

令和7年

8月10日(日)

9:30 ~ 11:50

会場

函館市亀田交流プラザ 講堂

(北海道函館市美原1丁目26-12)

対面及びオンライン
(zoomウェビナー)による
ハイブリッド開催

参加費無料
どなたでも参加
いただけます

オンラインによる配信は第一部のシンポジウムのみです

参加申込

事前参加申込制(申し込み締め切り8月6日※)

定員:対面100名、オンライン400名

参加を希望される方は、下記URL又は右のQRコード
からお申し込みください。

URL▶ <https://forms.gle/g5WQuAeVczLf1wRv9>



お問い合わせ先

日本学術会議北海道地区会議事務局

(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課)

Tel : 011-706-2155・2166 Fax : 011-706-4873

e-mail : suishin*general.hokudai.ac.jp

(上記 mail アドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

プログラム

● 開会の挨拶

日比谷 潤子(日本学術会議副会長・第一部会員/国際基督教大学名誉教授)

第一部 シンポジウム「AI時代に『対話』の意味を考える」

● 趣旨説明

美馬 のゆり(日本学術会議第一部会員/公立はこだて未来大学システム情報科学部教授)

宇山 智彦(日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

● 話題提供① 歴史学から

昔の人びとの声を聴く:歴史との対話から見えること

大橋 幸泰(日本学術会議第一部会員/早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

● 話題提供② 哲学から

AIの時代に、人間って何?:哲学から考える対話の力

河野 哲也(日本学術会議第一部会員/立教大学文学部教育学科教授)

● 話題提供③ 地域研究から

難しい相手と、どうすれば話し合える?:世界の地域紛争から学ぶ対話

宇山 智彦(日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事/北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

● 話題提供④ 言語学から

通じたと思って通じてない?:ことばとコミュニケーションの不思議

定延 利之(日本学術会議第一部会員/京都大学大学院文学研究科教授)

● 話題提供⑤ 法学から

社会のきまりはどう生まれる?:対話からどうやって合意を作るのか

只野 雅人(日本学術会議第一副部長/一橋大学大学院法学研究科教授)

● 話題提供⑥ 社会学から

文化の違いをどう乗り越える?:異文化理解から始まる対話

岩井 紀子(日本学術会議第一部会員/日本版総合的社会調査共同研究拠点大阪商業大学JGSS研究センターセンター長)

第二部 哲学対話:参加者と考えるAI時代の「対話」の意味

● 進行

河野 哲也(日本学術会議第一部会員/立教大学文学部教育学科教授)

● 閉会の挨拶

吉田 文(日本学術会議第一部長/早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

2025年度 東北地区会議事業報告

事業名	時期	場所	事業内容
○公開シンポジウム	2025年 8月7日(木) 13:30 ～17:30	東北大学青葉 山東キャンパス (オンライン併用)	<p>第三部会(夏季部会)と共同主催</p> <p>【テーマ】</p> <p>第一部「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」</p> <p>第二部「研究者と共に考えよう」 (対面グループディスカッション)</p> <p>【講演者】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 城戸 淳二(山形大学 特任教授フェロー) 2. 黒橋 禎夫(日本学術会議第三部会員/国立情報学研究所 所長) 3. 市川 温子(日本学術会議第三部会員/東北大学 大学院理学研究科 教授) 4. 本橋 ほづみ(日本学術会議連携会員/東北大学 大学院医学系研究科 教授) 5. 平田 泰久(東北大学 大学院工学研究科 教授) <p>◇参加者◇ 当日 約 230名(うち、オンライン約 50名) オンデマンド配信 約 70名</p>
○第26期 東北地区会議 運営協議会	2026年 3月3日(火) 16:15 ～17:00	オンライン開催	2025年度事業報告及び 2026年度事業計画の審議
○地区会議ニュー スの発行(No. 40)	2026年 3月		掲載内容 公開シンポジウム開催報告他

参加無料

事前登録制

どなたでも
ご参加できます

研究者になって 世界を駆け巡ろうⅡ

～研究者の卵たちと共に未来を描く～

日時

令和7年(2025年)

8.7 木

13:30

17:30

場所

東北大学大学院工学研究科

青葉山キャンパス C01 センタースクエア中央棟 2F 大講義室
(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6)

ハイブリッド開催

本公開シンポジウムでは、昨年度に続き「研究者になって世界を駆け巡ろうⅡ～研究者の卵たちと共に未来を描く～」を開催します。気候変動、エネルギー枯渇、貧困、戦争など、様々な地球規模の課題に立ち向かう日本の研究者たちが、世界中の研究者と力を合わせ、情熱をもって問題解決に取り組んでいます。まさに世界を駆け巡り研究を進めている最前線の研究者の方々を招き、その熱い想いと思い描く未来を中高生や若手研究者たちと共有し、次世代に向けて私たちに何ができるのか、どうやって取り組んでいけばいいのかなど、迷いや不安、疑問をはじめ、新たな気づきやアイデアなどを語り合しましょう。そして、より良い未来に向けて、まずは“一歩”共に考えていきましょう。

次第

司会進行

北川 尚美

日本学術会議第三部会員 /
東北大学 大学院工学研究科研究科長補佐・教授

13:30～13:40 開会挨拶

光石 衛 (日本学術会議会長/独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事/東京大学 名誉教授)

富永 悌二 (東北大学 総長)

伊藤 彰則 (東北大学 工学研究科長・工学部長)

13:40～16:05 講演

① 「世界で輝くための3つの鍵」

城戸 淳二 (山形大学 特任教授)

② 「LLM-jp: Team Science としての LLM 研究開発」

黒橋 禎夫 (日本学術会議第三部会員/国立情報学研究所 所長)

③ 「ニュートリノで垣間見る誕生1ピコ秒後の宇宙」

市川 温子 (日本学術会議第三部会員/東北大学 大学院理学研究科教授)

④ 「超硫黄分子と環境ストレス応答」

本橋 ほづみ (日本学術会議連携会員/東北大学 大学院医学系研究科教授)

⑤ 「AI ロボットと創る未来社会ーグローバル共創の現場から」

平田 泰久 (東北大学 大学院工学研究科教授)

16:05～16:10 公開シンポジウム閉会挨拶

五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員・日本学術会議東北地区会議代表幹事/東北大学 大学院医学系研究科教授)

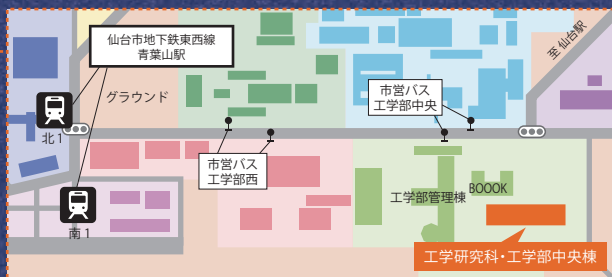
16:10～16:30 休憩 (※オンライン配信終了)

16:30～17:30 グループディスカッション

研究者の卵たちと共に未来を描く (対面グループディスカッション)

▶ 中高生・大学生と講師や会員との交流の場、参加者からの質問や意見交換を実施

各グループにて写真撮影、クロージング、終了



▶ 駐車場のご用意ができませんので、自家用車のご来場はご遠慮願います。

参加申込はこちら ※事前登録制

▶ 締切 8.3 (日)

対面ディスカッション参加希望は 7.25 (金) まで

▶ 参加申込方法

下記 URL 又は QR コードより

事前申込をお願いします。

<https://forms.gle/cGduCvyDKerKmAny8>主催 | 日本学術会議第三部会
日本学術会議東北地区会議
東北大学共催 | 東北大学大学院工学研究科
東北大学「科学者の卵養成講座」
後援 | 山形大学
国立情報学研究所

【お問合せ先】 東北大学研究推進課 TEL. 022-217-4840

令和7年度 中部地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
<p>中部地区会議 運営協議会</p> <p>第1回</p>	<p>令和7年 8月1日</p>	<p>石川県 金沢大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 中部地区会議運営協議会について</p> <p>2) 地区会議代表幹事の報告</p> <p>3) 学術講演会について</p> <p>4) 地区会議ニュースについて</p> <p>5) 令和6年度中部地区会議事業実施報告について</p> <p>6) 次回地区会議の開催について</p>
<p>第2回</p>	<p>令和7年 12月12日</p>	<p>愛知県 名古屋大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 中部地区会議運営協議会について</p> <p>2) 地区会議代表幹事の報告</p> <p>3) 学術講演会について</p> <p>4) 地区会議ニュースについて</p> <p>5) 次回地区会議の開催について</p> <p>6) 令和8年度中部地区会議事業実施計画について</p>
<p>科学者懇談会各県 幹事との打合せ会</p> <p>第1回</p>	<p>令和7年 8月1日</p>	<p>石川県 金沢大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))</p>	<p>1) 科学者懇談会について</p> <p>2) 科学者懇談会新会員の加入について</p> <p>3) 科学者懇談会幹事の交代について</p> <p>4) 令和6年度科学者懇談会収支について</p> <p>5) 学術講演会の進め方について</p> <p>6) 日本学術会議第194回総会の報告について</p>

第2回	令和7年 12月12日	愛知県 名古屋大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	1) 科学者懇談会について 2) 科学者懇談会県幹事の交代について 3) 科学者懇談会新会員の加入案内について 4) 学術講演会の進め方について 5) 日本学術会議第195回総会の報告について
学術講演会 第 回※	令和7年 8月2日	石川県 金沢大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	テーマ 「大災害からの復興と持続的社会のモデルを目指して～半島地域からの問題提起」 詳細は別紙のとおり (参加者 351 名) ※日本学術会議主催の地方学術会議「日本学術会議 in 石川」学術講演会を日本学術会議中部地区会議の学術講演会として位置付けた。
第1回	令和7年 12月12日	愛知県 名古屋大学 (対面及びオンライン(ハイブリッド開催))	テーマ 「これからのモビリティと社会受容性 ～自動運転実用化への課題と挑戦」 詳細は別紙のとおり (参加者 274 名)

地区会議ニュース の発行			
No. 158	令和 7 年 12 月		発行部数一部（メール配布のみ）
No. 159	令和 8 年 3 月		発行部数一部（メール配布のみ）

大災害からの復興と 持続的社会的モデルを目指して～ 半島地域からの問題提起

令和6年1月に発生した能登半島地震は、“半島”という地域社会に甚大な被害をもたらしました。この大災害を通して、地域の脆弱性や課題が浮き彫りとなり、今後の復興と持続可能な社会の構築に向けた新たな視点が求められています。本会議は、災害からの復興過程で明らかになった課題を共有した上でこれまでの取り組みを検証し、今後必要なことを探ることを目的としています。

Program

総合司会：松井 三枝（金沢大学国際基幹教育院 教授）

13:30~13:40 ■ 開会挨拶

光石 衛（日本学術会議会長）
和田 隆志（金沢大学長）
馳 浩（石川県知事）

13:40~13:50 ■ 趣旨説明

福森 義宏（金沢大学名誉教授）

13:50~15:45 I 学術講演

司会：中村 慎一（金沢大学理事（研究・社会共創・大学院支援担当）／副学長）

- 石川県における創造的復興に向けた取り組みについて
新田町 弘幸（石川県能登半島地震復旧・復興推進部長）
- 能登里山里海未来創造センターが見据える能登の復興と日本の未来
谷内江 昭宏（金沢大学理事（附属病院・同窓会・大学基金担当）／副学長、
能登里山里海未来創造センター長）
- 北陸先端大学の産学連携活動と能登半島震災復興支援への取り組み
寺野 稔（北陸先端科学技術大学院大学長）
- 能登半島地震・豪雨災害からの復興の空間計画的課題
姥浦 道生（東北大学災害科学国際研究所 教授）
- 日本学術会議における活動報告と提言
一激甚化する複合災害と自助・共助・公助による備え—
久田 嘉章（日本学術会議連携会員・防災減災学術連携委員会委員、工学院大学建築学部
まちづくり学科 教授）

総合討論

休憩（15分）

16:00~17:30 II パネルディスカッション

能登未来を担う若手による能登復興への提言

モデレータ 佐無田 光（日本学術会議連携会員、金沢大学融合研究域 教授）

パネリスト 北澤 晋太郎（NPO法人ガクソー 理事長）
小山 基（能登 DMC 合同会社 CMO）
新谷 健太（海浜あみだ湯 運営管理）
馬場 千遥（珠洲市特定地域づくり事業協同組合 事務局）
山口 敦子（有限会社山口水産 里山担当）
山下 祐介（のと米能ファーム 代表）

17:30~17:35 ■ 閉会挨拶

高田 広章（日本学術会議第三部会員・中部地区会議代表幹事、
名古屋大学未来社会創造機構 教授）

Information

日時

令和7年 8月2日（土）

13:30 ~ 17:35

場所

金沢市アートホール

石川県金沢市本町2丁目15番1号 ポルテ金沢6F



・JR金沢駅兼六園口より徒歩2分

開催形式

ハイブリッド開催

- ・対面 …………… 先着250名
- ・オンライン …………… 先着500名

参加方法

7月30日（水）までに下記 URLまたは2次元コードからお申し込みください。

定員になり次第、事前申込の受付は終了します。

<https://ws.formzu.net/fgen/S12764568/>

お問い合わせ先

金沢大学研究推進部研究企画課

TEL：076-264-6198

E-mail：scj-isk@adm.kanazawa-u.ac.jp



これからのモビリティと社会受容性

自動運転実用化への課題と挑戦

いま、私たちの「移動(モビリティ)」のあり方が大きく変わろうとしています。高齢化の進展や人手不足の深刻化により、地方では公共交通の維持が難しく、都市部でも交通の安全確保や効率化が課題となっています。誰もが安心して自由に移動できる社会をどう実現するかが問われています。

その解決の鍵として期待されているのが「自動運転」です。高齢者や交通弱者の移動を支えるだけでなく、物流や都市インフラの効率化を進め、エネルギーの無駄を減らし、環境負荷の少ない社会づくりにも貢献できる可能性を秘めています。

一方で、安全性や法律、倫理、そして「社会がどう受け入れるか」といった課題も残されています。技術の進歩だけでは、安心して任せられる未来はつくれません。

この講演会では、工学・法学・社会科学など多様な視点から自動運転の現状と展望をわかりやすく紹介し、持続可能で豊かなモビリティ社会の実現に向けて考えます。技術に詳しくない方も大歓迎です。私たちの暮らしの未来を、ぜひ一緒に見つめてみませんか。

2025年12月12日(金) 13:00▶16:40

東海国立大学機構CommonNexus(名古屋大学)
LOAM HALL

名古屋市千種区不老町 地下鉄名城線名古屋大学駅1番出口直通

〇〇〇
参加無料
どなたでも参加できます

13:00▶13:20

開会挨拶

名古屋大学総長 杉山 直(日本学術会議第三部会員)
日本学術会議副会長 三枝 信子(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事)

13:20▶13:30

主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

13:30▶13:40

科学者との懇談会活動報告

中部地区科学者懇談会幹事長 松田 正久(愛知教育大学名誉教授、元学長)

●日本学術会議第195回総会を傍聴して

中部地区科学者懇談会愛知県幹事 和田 肇(名古屋大学名誉教授)

13:40▶16:30

自動運転の社会実装とELSI

中野 公彦(東京大学生産技術研究所教授)

※第25期自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会幹事、第25期特任連携会員

ロボットタクシーの社会導入に向けて～自動運転技術の課題と安全性評価に向けた取り組み～
菅沼 直樹(金沢大学高度モビリティ研究所教授)

自動運転の社会実装のあり方～日米の法制度比較から考える

中川 由賀(中京大学法学部教授、名古屋大学未来社会創造機構客員教授、弁護士)

モビリティイノベーションがもたらす街と社会へのインパクト

森川 高行(名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所特任教授・名誉教授、名古屋大学COI-NEXTマイモビリティ共創拠点長・PL)

質疑・まとめ

16:30▶16:40

閉会挨拶

日本学術会議中部地区会議運営協議会委員 野口 晃弘(日本学術会議第一部会員、南山大学経営学部経営学科教授)

司会 高田 広章(日本学術会議中部地区会議代表幹事)

ハイブリッド
開催

参加希望の方は、2025年12月8日(月)までに下記URLまたはQRコードより事前に申込みをお願いします。定員になり次第、事前申込みの受付は終了いたします。

<https://forms.office.com/r/jsPJrjX2yP>



講師プロフィール



中野 公彦

東京大学生産技術研究所
教授

自動運転の社会実装とELSI

自動運転技術は、交通事故の減少や高齢者の移手段の確保など、私たちの暮らしに関わる多くの課題を解決することが期待されている。ただし、社会で実際に使われるようにするためには、安全性や信頼性といった技術的な課題だけでなく、ELSI（倫理的・法的・社会的課題）にも対応する必要がある。例えば、事故が起きたときの責任を誰が負うのか、技術の仕組みがどこまで公開されるべきか、利用者のプライバシーをどう守るか、地域の人々にどう受け入れてもらうかなどが重要である。東京大学柏キャンパスと最寄り駅を結ぶシャトルバスでは、2019年から自動運転バス（レベル2）の長期実証運行を行い、ELSIを踏まえた社会実装のあり方を探ってきた。その成果は、日本学術会議による見解「自動運転における倫理・法律・社会的課題」にも反映されている。本講演では、これらの活動を紹介しながら、今後本格化する自動運転の社会実装に向けて考えるべき課題を整理する。

Profile

2000年、東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻博士課程修了。博士（工学）。山口大学工学部、同大学院医学研究科応用医学専攻を経て、2006年より東京大学生産技術研究所助教授（後に准教授に改称）、2018年より同研究所教授。専門は車両の運動と制御であり、現在は自動運転技術の社会実装に取り組んでいる。



菅沼 直樹

金沢大学高度モビリティ
研究所教授

ロボットタクシーの社会導入に向けて～自動運転技術の課題と安全性評価に向けた取り組み～

金沢大学ではこれまで1998年から25年以上の長きにわたって市街地における自動車の自動運転を実現するための技術を開発してきた。本講演では金沢大学の自動運転技術に関するこれまでの取り組みと、金沢大学の自動運転技術をコア技術としロボットタクシーの社会導入を目指す株式会社ムービーズの取り組み状況について述べる。また自動運転を実現するためには通常のドライバーが行っている認知・予測・判断などの一連の運転動作を、車載センサ、コンピュータ等を用いて実現する必要がある。このため自動運転技術の社会実装に向けて、現状の自動運転の技術的課題や安全性評価に関する取り組みについても述べる。

Profile

2002年金沢大学大学院博士課程修了。博士（工学）。2002年日本学術振興会特別研究員PDを経て、同年金沢大学工学部助手に着任。2021年に金沢大学の全学的な組織として金沢大学 高度モビリティ研究所が新たに発足され、現在 同研究所 副所長を務める。1998年から自動運転自動車の研究を開始し、2015年からは国内の大学として初となる市街地での公道走行実験も開始。2024年に（株）ムービーズを設立し、現在同社の代表取締役を務め、ロボットタクシーの開発及び事業化を推進している。



中川 由賀

中京大学法学部教授
名古屋大学未来社会創造
機構客員教授
弁護士

自動運転の社会実装のあり方～日米の法制度比較から考える

自動運転技術は、交通事故の削減や移動の効率化を通じて、社会の在り方そのものを変革し得る革新的技術である。その社会実装を現実のものとするためには、技術的進歩のみに依拠することはできず、従来の法制度では想定されてこなかった多様な法的課題への対応が不可欠である。特に、自動運転における技術基準の設定、安全性評価の方法、事故調査の方法等については、各国で活発な議論が進められている。本講演では、日本とアメリカの法制度を比較し、自動運転技術の社会実装に向けた法的課題を多角的に検討する。両国の制度設計の相違を手掛かりとして、技術革新と法の調和的発展の方向性を探り、社会的受容性をいかに確立していくかを考察する。

Profile

慶応義塾大学法学部卒業。検事を経て、現在は中京大学教授、名古屋大学客員教授、弁護士。専門は、刑事法。2015年から自動運転の法律問題の研究に取り組んでいる。警察庁・国土交通省の委員を務め、自動運転の事故調査や自動運転の社会実装に関する制度設計の議論に携わっている。



森川 高行

名古屋大学未来社会創造
機構モビリティ社会研究所
特任教授・名誉教授
名古屋大学COI-NEXT
マイモビリティ共創拠点長
・PL

モビリティイノベーションがもたらす街と社会へのインパクト

自動運転やライドシェアリングなど、モビリティ（移動）の世界では百年に一度の革命期が訪れている。一方で、日本ではローカル線やバス便の存続問題や職業運転手の不足など公共交通における喫緊の課題も多い。はたしてこれらの課題は完全自動運転車で解決するのか、また完全自動運転車はいつ出現するのかなどの疑問も残る。本講演では、名古屋大学が取り組む先進モビリティに関する大型の研究開発プロジェクトの経験を踏まえつつ、モビリティイノベーションがもたらす街と社会の変化について述べる。

Profile

京都大学工学部卒業、同大学院修士課程修了、マサチューセッツ工科大学（MIT）大学院博士課程修了。京都大学助手、名古屋大学助教授、MIT客員准教授を経て、2000年から名古屋大学大学院教授、2024年から特任教授・名誉教授。2016年から名古屋大学COI研究リーダー、2022年から名古屋大学COI-NEXTプロジェクトリーダー、2023年からSIPスモビ名古屋大学コンソーシアム統括責任者。専門は、次世代モビリティ、交通計画、都市計画、消費者行動論。上記の研究プロジェクトにおいて、モビリティ格差の無い街と社会づくりに取り組んでいる。

令和7年度 近畿地区会議事業報告

■日本学術会議近畿地区会議学術講演会

テーマ：「社会の持続可能性と水問題」（オンライン・対面併用開催）

日時：令和7年9月13日（土）13:00～17:00

主催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学

参加者数：約350名（うちオンライン約225名）

<プログラム>

開会挨拶：三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事）
時任 宣博（京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長）

趣旨説明：伊藤 公雄（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授）

【講演】

基調講演「水の未来と水みんフラ」

沖 大幹（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

講演1 「水が育んだ『千年の都・京都』」

鈴木 康久（京都産業大学現代社会学部現代社会学科教授）

講演2 「日本の水辺と『さとうみ（里湖・里海）』」

佐野 静代（同志社大学文学部文化史学科教授）

講演3 「水道インフラの維持管理問題とフューチャー・デザイン～自治体での実践事例を基に～」

原 圭史郎（大阪大学大学院工学研究科教授）

講演4 「アジア・アフリカの水・衛生とサニテーションの意義」

原田 英典（京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授）

パネル討論

パネリスト：上記講演者

コーディネーター：伊藤 公雄

全体総括：村山 美穂（日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授）

総合司会：矢野 桂司（日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授）

■日本学術会議近畿地区会議運営協議会・学術文化懇談会

日時：令和8年3月5日（木）開催

議題：令和7年度事業報告について

令和8年度事業計画について

令和8年度近畿地区会議学術講演会について 他

■地区会議ニュースの発行（No. 35）

令和8年3月

発行部数 今年度より電子メールにて送付

社会の持続可能性と 水問題



2025

9.13[±] 13:00 ~ 17:00

京都大学芝蘭会館稲盛ホール
(京都市左京区)

私たちの暮らす地球は、その表面積の71%が水でできており、まさに「水の惑星」ともいわれてきました。また、水は生命の源でもあることはよく知られた事実です。なかでも山地や森林に恵まれた日本は、世界でも稀な「美味しい飲料水」に満ちた社会であり、歴史的にも私たちの生活は、農耕や水運などを含め水に支えられてきたと言ってもいいでしょう。

ところが、現在、水を巡ってさまざまな危機的状況が生まれつつあります。人口爆発は、私たちの生命を支える水の問題を顕在化させようとしています。また、水道の民営化問題は経済の発達した諸国を中心に様々な議論を呼び起こしつつあります。さらに、日本社会を振り返ってみれば、年初に埼玉県八潮市で発生した道路陥没の事件は、老朽化した上下水道の補修は待たなしの課題であることを私たちに警告しています。

水という身近でありながら見落とされがちな問題を、歴史的にまたグローバルな視点も踏まえて、改めて考えてみたいと思います。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

事前参加申込制
どなたでもご参加いただけます。

参加費無料

ハイブリッド開催

【開会挨拶】

主催者代表 三枝 信子

(日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所理事)

主催者代表 時任 宣博

(京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長)

【講演】

基調講演

「水の未来と水みんフラ」

沖 大幹 (日本学術会議第三部部長、東京大学大学院工学系研究科教授)

講演1 「水が育んだ『千年の都・京都』」

鈴木 康久 (京都産業大学現代社会学部現代社会学科教授)

講演2 「日本の水辺と『さとうみ(里湖・里海)』」

佐野 静代 (同志社大学文学部文化史学科教授)

講演3 「水道インフラの維持管理問題と

フューチャー・デザイン
～自治体での実践事例を基に～」

原 圭史郎 (大阪大学大学院工学研究科教授)

講演4 「アジア・アフリカの水・衛生と

サニテーションの意義」

原田 英典 (京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授)

【パネルディスカッション】

講演者らによるパネルディスカッション

コーディネーター:

伊藤 公雄 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授/大阪大学名誉教授)

【全体総括】

村山 美穂 (日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授)

【総合司会】

矢野 桂司 (日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授)

参加申込方法

参加を希望される方は、9月9日(火)までに
下記URLまたはQRコードより事前申込を
お願いいたします。

(対面・オンライン参加共通)

<https://forms.gle/ENka7R1nMsbSJKu17>



お問合せ先

日本学術会議近畿地区会議事務局

(京都大学総合研究推進本部内)

[Tel] 075-753-5586 [Fax] 075-753-2042

[E-mail] scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

主催：日本学術会議近畿地区会議
京都大学

リサイクル適性[®]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

令和7年度 中国・四国地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
<p>・学術講演会</p>	<p>令和7年 11月29日</p>	<p>鳥取大学鳥取キャンパス(ハイブリット開催)</p>	<p>学術講演会：持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知</p> <p>開会挨拶（以下敬称略）</p> <p>1) 磯 博康（日本学術会議副会長・第二部会員、国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐）</p> <p>2) 原田 省（鳥取大学学長）</p> <p>講演趣旨説明</p> <p>恒川 篤史（日本学術会議連携会員、鳥取大学理事・副学長）</p> <p>講演</p> <p>1) 「地球規模の限界地問題：食糧危機克服に向けた学術的アプローチ」 辻本 壽（日本学術会議連携会員、鳥取大学学長顧問・特任教授・名誉教授）</p> <p>2) 「スマート農業が切り拓く、限界地域の農業イノベーション」 竹村 圭弘（鳥取大学農学部准教授）</p> <p>3) 「生物多様性の保全をビジネスにするという考え：持続可能な地域社会への貢献」 小林 朋道（公立鳥取環境大学学長）</p> <p>4) 「人口最少県におけるトップクラスの最先端手術と人材育成：地域医療の未来」 武中 篤（鳥取大学副学長・医学部附属病院長）</p> <p>5) 「30年後の鳥取県を創る：若手県職員の地域づくりへの挑戦」 奥野 絵美（鳥取県とっとり未来創造タスクフォース係長）</p> <p>6) 「「エデュテインメント」の可能性：ワクワク・夢中が導く学ぶ力」 熊埜御堂朋子（鳥取大学理事）</p>

<p>・第1回 地区会議運営協 議会</p>	<p>令和7年 11月29日</p>	<p>鳥取大学鳥 取キャンパ ス(ハイブリ ット開催)</p>	<p>閉会挨拶 藪田 ひかる (日本学術会議第三部会 員、中国・四国地区会議代表幹事、広島 大学大学院先進理工系科学研究科教 授)</p> <p>運営協議会： 1) 令和8年度公開学術講演会について 2) 令和7年度公開学術講演会について 3) 令和7年度地区ニュース (No. 57) に ついて</p>
<p>・第2回 地区会議運営協 議会</p>	<p>令和8年 3月2日</p>	<p>広島大学(オ ンライン開 催)</p>	<p>運営協議会： 1) 令和7年度事業報告及び令和8年度 事業計画について 2) 令和8年度公開学術講演会について 3) 中国・四国地区会議オンラインシン ポジウムについて</p>
<p>・オンラインシ ンポジウム</p>	<p>令和8年 3月16日</p>	<p>広島大学(オ ンライン開 催)</p>	<p>約100名が所属する会員・連携会員の ネットワークを生かし、中国四国地域 での取り組みや課題を情報共有すると ともに、専門分野を越えた交流と相互 理解を深めることを目的に開催</p>
<p>・地区会議ニュ ースの発行 (NO. 57)</p>	<p>令和8年3月</p>		<p>中国・四国地区の日本学術会議会員・連 携会員及び教育研究機関へ配布</p>

持続可能な 未来への挑戦

限界地域における イノベーションと総合知

入場
無料

令和7年

11月29日(土)

13:30~17:10

会場

鳥取大学

鳥取キャンパス 工学部講堂

(鳥取県鳥取市湖山南4丁目101番地)

オンライン配信での視聴も可能です。

現在、多くの地域では、少子高齢化、資源の枯渇、環境問題など、複合的な課題に直面しています。こうした「限界地域」が抱える課題を克服し、持続可能な社会を築くためには、特定の分野にとどまらない多様な知識や知恵を融合させた「総合知」が不可欠です。本講演会では、学術、行政、医療など各分野の第一線で活躍されている方々をお招きし、それぞれの立場から限界地域における新たな価値の創出、イノベーション、そして未来に向けた挑戦についてご講演いただきます。

この講演会を通じて、私たちは、未来の地域社会をどう築いていくべきか、そしてそのためにはどのような学術的行動が必要なのか、「課題先進地域」である鳥取から未来社会に資する新たな知と行動について参加者の皆様とともに考えを深めていきたいと考えます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

プログラム

- 開会挨拶 13:30~13:45
磯 博康 日本学術会議副会長・第二部会員、国立健康危機管理研究機構
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長・理事長特任補佐
原田 省 鳥取大学学長
- 趣旨説明 13:45~13:50
恒川 篤史 日本学術会議連携会員、鳥取大学理事・副学長
- 講演 13:50 ~ 16:30(各25分)(休憩:15:05~15:15)
 - ①「地球規模の限界地問題：食糧危機克服に向けた学術的アプローチ」
辻本 壽 日本学術会議連携会員、鳥取大学学長顧問・特任教授・名誉教授
 - ②「スマート農業が切り拓く、限界地域の農業イノベーション」
竹村 圭弘 鳥取大学農学部准教授
 - ③「生物多様性の保全をビジネスにするという考え：持続可能な地域社会への貢献」
小林 朋道 公立鳥取環境大学学長
 - ④「人口最少県におけるトップクラスの最先端手術と人材育成：地域医療の未来」
武中 篤 鳥取大学副学長・医学部附属病院長
 - ⑤「30年後の鳥取を創る：若手県職員の地域づくりへの挑戦」
奥野 絵美 鳥取県とっとり未来創造タスクフォース係長
 - ⑥「[エデュテインメント]の可能性：ワクワク・夢中が導く学ぶ力」
熊埜御堂 朋子 鳥取大学理事
- 総合討論：未来の地域社会をどう築いていくべきか 16:30~17:00
モデレーター 恒川 篤史
- 閉会挨拶 17:00~17:10
藪田 ひかる 日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、
広島大学大学院先進理工系科学研究科教授

参加希望の方は11月21日(金)までに下記URLまたはQRコードより、申し込みをお願いいたします。

申し込み締め切り

11/21(金)

申込フォームURL

<https://forms.gle/UrojgTzQX9mnujqn6>



お問合せ先

鳥取大学 研究推進部 研究推進課

TEL.0857-31-5609 E-Mail ken-somu@ml.adm.tottori-u.ac.jp

●主催：日本学術会議中国・四国地区会議 ●共催：国立大学法人鳥取大学 ●後援：鳥取県

令和7年度 九州・沖縄地区会議事業報告

事業名	実施日時	場所	事業内容
運営協議会の開催	令和7年9月	書面回議	議題 令和7年度 九州・沖縄地区会議 科学者懇談会・学術講演会の開催について
	令和8年2月	書面回議	議題 (1) 令和7年度事業報告について (2) 令和8年度事業計画(案)について
「科学者懇談会」・ 「学術講演会」の開催	令和7年 12月5日 (金)	熊本大学 キャンパス内 (オンライン 併用)	熊本大学との共催により開催 ■科学者懇談会（非公開） 日比谷副会長、熊本大学の小川学長をはじめ合計24名が出席し、田中事務局次長による日本学術会議の最近の活動状況説明があったほか、出席者にて意見交換等を行った ■学術講演会（一般公開） 【講演テーマ】 「半導体が創る熊本の未来」 【演題・講演者】 ・講演1 「大手半導体ファブの熊本進出による影響と我が国が目指すべき方向（私論）」 平井 寿敏（熊本県産業技術センター 所長） ・講演2 「熊本地域における新規半導体産業創出のための三次元積層実装向けシステム設計評価技術」 大川 猛（熊本大学半導体・デジタル研究教育機構 教授） ・講演3 「熊本地域の半導体産業を支える地下水資源」 細野 高啓（熊本大学大学院先端科学研究部 教授） 【講演会参加者数】 167名（現地89名、オンライン78名）

地区会議ニュースの 発行 (No. 124 号)	令和 8 年 3 月		九州・沖縄地区の日本学術会議会員・連携会員 及び教育研究機関等へメール配布 ※令和 7 年度の活動報告ほか
-----------------------------	------------	--	---

日本学術会議
九州・沖縄地区会議

学術講演会

ハイブリッド開催



半導体が創る 熊本の未来

近年、半導体産業は、私たちの生活だけでなく社会全体を大きく変える力を持っています。特に熊本県では、TSMCの進出を筆頭に半導体関連企業の集積が急速に進んでおり、地域経済、教育、文化、そして学術研究にも計り知れない影響をもたらそうとしています。

本講演会では、熊本大学がこの大きな変革の中でどのような学術振興を推進し、地域と共に未来を創造していくのかに焦点を当てます。半導体が切り開く新たな可能性を理解し、熊本の持続可能な未来を築くための議論の場を提供いたします。

主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
共催：熊本大学
後援：熊本県、熊本市

令和7年

12月5日 金

15:00~16:55

参加無料

どなたでも
ご参加できます

参加申込み

※対面・オンライン共通

締切日：令和7年11月25日(火)17:00

<https://forms.office.com/r/bYfFr3RenZ>



現地会場

熊本大学 工学部百周年記念館
熊本市中央区黒髪2-39-1



Program

司会：西山 忠男

(日本学術会議連携会員、熊本大学大学院先端科学研究部名誉教授・
ダイバーシティ推進室特定事業教員)

15:00~15:10

開会挨拶

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長・第一部会員、国際基督教大学名誉教授)

小川 久雄 (熊本大学長)

15:10~16:50

講演

1. 大手半導体ファブの熊本進出による影響と
我が国が目指すべき方向(私論)

平井 寿敏 (熊本県産業技術センター所長)

2. 熊本地域における新規半導体産業創出のための
三次元積層実装向けシステム設計評価技術

大川 猛 (熊本大学半導体・デジタル研究教育機構教授)

3. 熊本地域の半導体産業を支える地下水資源

細野 高啓 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)

16:50~16:55

閉会挨拶

内田 誠一 (日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、
九州大学大学院システム情報科学研究院教授)

お問い合わせ先

熊本大学 研究・社会連携部 研究推進課 総務企画担当
TEL. 096-342-3146, 3242